

Q16 「妊婦が生活しやすい」施設・交通機関の普及希望

問16 施設普及希望の有無

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 はい	299	87.9	97.7	97.7
	2 いいえ	7	2.1	2.3	100.0
	合計	306	90.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	34	10.0		
合計		340	100.0		

Q16-1 普及を希望する理由

\$Q16_1 度数分布表

		応答数		ケースの パーセント
		N	パーセント	
\$Q16_1	問16_1 普及を希望する理由: 席を譲ってほしい	158	18.0%	52.8%
普及を 希望す ^a る理由	問16_2 普及を希望する理由: 優先座席を利用したい	113	12.9%	37.8%
	問16_3 普及を希望する理由: 近くでタバコ	198	22.6%	66.2%
	問16_4 普及を希望する理由: 押されたくない	165	18.8%	55.2%
	問16_5 普及を希望する理由: 気づいてほしい	102	11.6%	34.1%
	問16_6 普及を希望する理由: 手助けしてほしい	126	14.4%	42.1%
	問16_7 普及を希望する理由: その他	14	1.6%	4.7%
	合計		876	100.0%

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

Q16-2 普及を希望しない理由

\$Q16_2 度数分布表

		応答数		ケースの パーセント
		N	パーセント	
\$Q16_2	問16_2_1 普及を希望しない理由: 効果がない	4	57.1%	66.7%
普及を希 望しない 理由	問16_2_2 普及を希望しない理由: 施設が少ない	1	14.3%	16.7%
	問16_2_4 普及を希望しない理由: その他	2	28.6%	33.3%
合計		7	100.0%	116.7%

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

マタニティマークに関するアンケート

以下の質問についてお答えください。

A. あなたご自身についてお答えください。

Q 1. あなたは、何歳ですか。 () 才

Q 2. あなたは現在、妊娠何週ですか。 妊娠 () 週

Q 3. あなたは出産経験がありますか。 1. はい 2. いいえ

Q 4. あなたの職業をお答えください。

1. 主婦
2. 医療福祉関係 (学生含む)
3. 保育園・幼稚園関係
4. バス・電車など交通機関関係
5. その他 ()

Q 5. 妊娠初期 (妊娠16週未満まで) に、外出先でつらい思いや困った経験をしたことがありますか。

1. はい →Q 6へ
2. いいえ →B (4ページ目) へ

Q 6. 「Q 5」で「1. はい」と答えた方にお聞きします。

妊娠初期に、外出先でつらい思いや困った経験をした場所はどこですか。(複数回答可)

1. 電車・バス →Q6-1へ
2. デパート・スーパー →Q6-2へ
3. 飲食店 →Q6-3へ

その他に外出先でつらい思いや困った経験をした場所やその内容があればご記入ください。

<p>場所 :</p> <p>内容 :</p>	
-------------------------	--

Q6-1「Q 6」で「1. 電車・バス」と答えた方にお聞きします。

辛かったこと、困ったことを具体的に教えてください。(複数回答可)

1. 席を譲ってもらえなかった
2. 近くでタバコを吸われた
3. 押されたりぶつかられたりして危ない思いをした
4. 具合が悪くなったとき対応してもらえなかった
5. 優先座席を利用するのに気を遣った
6. 優先座席に座っていて白い目でみられた
7. その他 ()

Q6-2「Q 6」で「2. デパート・スーパー」と答えた方にお聞きします。

辛かったこと、困ったことを具体的に教えてください。(複数回答可)

1. 近くでタバコを吸われた
2. 押されたりぶつかられたりして危ない思いをした
3. 具合が悪くなったとき対応してもらえなかった

4. その他 ()

Q6-3 「Q6」で「3. 飲食店」と答えた方にお聞きします。

辛かったこと、困ったことを具体的に教えてください。(複数回答可)

1. 近くでタバコを吸われた
2. 押されたりぶつかられたりして危ない思いをした
3. 具合が悪くなったとき対応してもらえなかった
4. その他 ()

B. 妊娠初期(妊娠16週未満)の外出についてお答えください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1) 普段からバスや電車などの交通機関を利用することが多い	1	2	3	4
2) 普段から仕事以外にもよく外出する	1	2	3	4
3) 妊娠してから外出を控えるようになった	1	2	3	4
4) 妊娠してから交通機関の利用を控えるようになった	1	2	3	4
5) 妊娠してから交通機関の混雑する時間を避けるようになった	1	2	3	4
6) 妊娠してから外出先でのタバコの煙を気にするようになった	1	2	3	4
7) 妊娠中の外出は不安に思う	1	2	3	4

Q7. 妊娠初期(妊娠16週まで)でお腹のふくらみが目立たないときに電車・バスなどの交通機関で、混雑時に優先座席を利用したことがありますか。

1. はい →Cへ
2. いいえ →Q7-1へ

Q7-1「Q7」で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。

利用しなかった理由について教えてください。(複数回答可)

1. 混雑時の交通機関を利用する機会がなかったから
2. 冷たい目で見られることが嫌だったから
3. 立っていることを苦に思わなかったから
4. 恥ずかしかったから
5. 席を譲ってもらうことができなかったから
6. その他 ()

C. マタニティマークについてお答えください。

Q8. 全員の方にマタニティマーク(右図)についてお聞きします。

1. マタニティマークの意味を知っている→Q8-1へ
2. マタニティマークを見たことはあるが、意味は知らない→※へ
3. マタニティマークを見たことがない →※へ

※8ページの資料をご参照の上、Q15へ



Q8-1「Q8」で「1. マタニティマークの意味を知っている」を選択された方にお聞きします。

マークについて知られたきっかけはどのようなものでしたか。

- 1. 雑誌、広告
- 2. 家族、友達、知人
- 3. インターネット
- 4. その他 ()

Q8-2キーホルダーやバッチなどのマタニティマークグッズを利用されたことがありますか。

- 1. はい →Q9へ
- 2. いいえ →Q10へ

Q9. 「Q8-2」で「1. はい」と答えた方にお聞きします。

Q9-1 どのようなものを利用されましたか。(複数回答可)

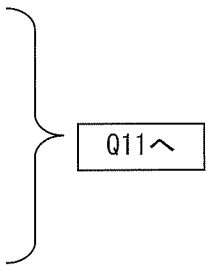
- 1. キーホルダー
- 2. バッチ
- 3. その他

Q9-2 キーホルダーやバッチなどのマタニティマークグッズを利用することでどのような効果が得られましたか。(複数回答可)

- 1. 電車やバスで席を譲ってもらえた
- 2. 近くでタバコを吸われなくなった
- 3. 押されたりぶつかられたりすることがなくなった
- 4. 妊娠していることを気づいてもらった
- 5. 手助けしてもらえた
- 6. 効果はなかった
- 7. その他 ()

Q9-3 どのような効果を期待してキーホルダーやバッチなどのマタニティマークグッズを利用されていますか。

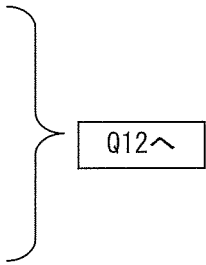
- 1. 混雑した交通機関で座席をゆずってほしい
- 2. 周りの目を気にすることなく優先座席を利用したい
- 3. 近くでタバコを吸われたくない
- 4. 押されたり、ぶつかられたくない
- 5. 何も言わなくても妊娠していると周りに気づいてほしい
- 6. 困ったときに手助けしてほしい
- 7. その他 ()



Q10. 「Q8-2」で「2. いいえ」と答えた方に質問します。

Q10-1 キーホルダーやバッチなどのマタニティマークグッズを利用されなかった理由をお答えください。(複数回答可)

- 1. デザインが気に入らないから
- 2. 利用しても効果がないと思うから
- 3. 妊娠していることを周りに知られたくないから
- 4. 恥ずかしいから
- 5. 入手方法が分からなかったから
- 6. 外出する機会が少なかったから
- 7. マタニティグッズについて知らなかったから
- 8. その他 ()



Q11. マタニティマークのポスターなどを掲示して、妊婦が生活しやすい環境づくりを推進している施設や、電車・バスなどを利用されたことがありますか。

1. はい →Q12 へ
2. いいえ →Q13 へ

Q12. 「Q11」で「1. はい」と答えた方に質問します。

Q12-1どのようなものを利用されましたか。(複数回答可)

1. 公共施設
2. 電車・バス
3. 店舗
4. その他 ()

Q12-2マタニティマークを掲示している施設や、電車・バスを利用することでどのような効果が得られましたか。

(複数回答可)

1. 電車やバスで席を譲ってもらえた
2. 近くでタバコを吸われなくなかった
3. 押されたりぶつかられたりすることがなくなった
4. 妊娠していることを気づいてもらった
5. 手助けしてもらえた
6. 効果はなかった
7. その他 ()

Q12-3どのような効果を期待してマタニティマークを掲示している施設や、電車・バスを利用されていますか。

1. 混雑した交通機関で座席をゆずってほしい
2. 周りの目を気にすることなく優先座席を利用したい
3. 近くでタバコを吸われたくない
4. 押されたり、ぶつかられたくない
5. 何も言わなくても妊娠していると周りに気づいてほしい
6. 困ったときに手助けしてほしい
7. その他 ()

Q14へ

Q13. 「Q11」で「2. いいえ」と答えた方に質問します。

マタニティマークのポスターなどを掲示して、妊婦が生活しやすい環境づくりを推進している施設や、電車・バスなどを利用されない理由を教えてください。

1. 利用しても効果がないと思うから
2. そのような施設が少ない、または、見たことがないから
3. 外出する機会が少ないから
4. その他 ()

Q14へ

Q14. 全員の方にお聞きます。

今後もマタニティマークのバッチやキーホルダーなどのグッズの普及を望まれますか。

1. はい →Q14-1へ
2. いいえ →Q14-2へ

Q14-1「Q14」で「1. はい」と答えた方にお聞きします。

そのように思われる理由を教えてください。(複数回答可)

1. 混雑した交通機関で座席をゆずってほしい
2. 周りの目を気にすることなく優先座席を利用したい
3. 近くでタバコを吸われたくない
4. 押されたり、ぶつかられたくない
5. 何も言わなくても妊娠していると周りに気づいてほしい
6. 困ったときに手助けしてほしい
7. その他 ()

Q15へ

Q14-2「Q14」で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。

そのように思われる理由を教えてください。(複数回答可)

1. デザインが気に入らないから
2. 利用しても効果がないと思うから
3. 妊娠していることを周りに知られたくないから
4. 恥ずかしいから
5. 入手方法が分からなかったから
6. 外出する機会が少なかったから
7. その他 ()

Q15へ

Q15. 全員の方にお聞きします。今後もマタニティマークのポスターなどを掲示して、妊婦が生活しやすい環境づくりを推進している施設や、電車・バスなどの普及を望まれますか。

1. はい →Q15-1へ Q2. いいえ →15-2へ

Q15-1「Q15」で「1. はい」と答えた方にお聞きします。そのように思われる理由を教えてください。(複数回答可)

1. 混雑した交通機関で座席をゆずってほしい
2. 周りの目を気にすることなく優先座席を利用したい
3. 近くでタバコを吸われたくない
4. 押されたり、ぶつかられたくない
5. 何も言わなくても妊娠していると周りに気づいてほしい
6. 困ったときに手助けしてほしい
7. その他 ()

Q15-2「Q15」で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。そのように思われる理由を教えてください。(複数回答可)

1. 利用しても効果がないと思うから
2. そのような施設が少ない、または、見たことがないから
3. 外出する機会が少ないから
4. その他 ()

以上でアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。

EPDS得点の分散と関連因子に関する研究

鈴木 茜 千葉県印西市中央保健センター
竜岡 久枝 滋賀医科大学大学院医学系研究科
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部
山縣 然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部

健やか親子21では産後うつ病発生率の減少を目指しており、新生児訪問時や乳児健診時に
いてエジンバラ産後うつ病質問紙票（以下EPDS）を用いた支援が導入され始めている。

今回、A県B市において、乳児健診時におけるEPDSを用いた、EPDS得点の分散や関連因子に
ついて調査した。その結果、得られた知見は以下のとおりであった。

- 1) 乳児健診時におけるEPDS9点以上の高得点の割合は5.7%であった。
- 2) EPDS得点の平均の差がみられたものは、以下の5項目であった。
 - ① 「初産か経産か（経産のほうが高い）」(p<0.01)
 - ② 「協力者の有無（協力者なしのほうが高い）」(p<0.01)
 - ③ 「精神科既往の有無（精神科既往ありのほうが高い）」(p<0.05)
 - ④ 「孤立した育児環境の有無（孤立した育児環境ありのほうが高い）」(p<0.05)
 - ⑤ 経済的な不安の有無（経済的な不安ありのほうが高い）」(p<0.05)
- 3) EPDS得点（8点以下 - 9点以上）との関連がみられたものは、「精神科既往の有無」「孤立した育児環境の有無」「経済的な不安の有無」の3項目であった（p<0.01）。

I. 研究の目的

健やか親子21^{1) 2)}で謳われているように、産後うつの取り組みが課題となっている。マタニティーブルーズや産後うつ病を早期に見つけて支援につなげていくことが重要であり³⁾、各自治体においても新生児訪問や乳幼児健診時にエジンバラ産後うつ病質問紙票（以下EPDS）を用い、母親の精神的健康状態の把握と支援を行っている。EPDSで高得点者（9点以上）は産後うつ病の疑いと考えられており^{4) 5)}、中間評価年の平成17年度全国調査⁶⁾では新生児訪問時におけるEPDS得点が9点以上であった割合は12.8%であった。

今回、A県B市において、乳児健診時の産後うつの割合や産後うつに影響を及ぼす因子について調査分析したため報告する。

II. 研究の方法

1. 対象

A県B市の乳児健診に来所した保護者515名であった。

2. 方法

乳児健診来所時に自記式質問票を配布回収した。

調査期間は、平成17年4月～平成18年3月であった。

3. 調査内容

初産か経産か、年齢、職業の有無、協力者の有無、相談者の有無、精神科既往の有無、ライフイベントの有無、孤立した育児環境の有無、子どもの問題の有無、経済的な不安の有無、EPDS得点について調査した。

4. 調査内容に関する用語の定義

精神科既往は、これまでの生活の中で（結婚や妊娠以前も含め）精神的に落ち込み専門

医の診察を受けたり、服用したり、カウンセリングを受けたことがあったなどを問い、あったものを有りとした。

ライフイベントは、今回の妊娠中から産後に、親しい人の死亡や病気があった、引越しや離婚など環境の変化があったなどを問い、あったものを有りとした。

子どもの問題は、出産時の状況やこれまでの疾病、健診結果、母親が育てにくさを感じているかを問い、あったものを有りとした。

Ⅲ. 結果

1. 初産か経産か

初産191名 (37.2%)、経産323名 (62.8%)であった。

2. 年齢

最低年齢18歳、最高平均42歳、最多年齢31歳であり、平均年齢は29.48 (±4.72) 歳であった。

3. 職業の有無

職業あり95名 (18.5%)、職業なし419名 (81.5%)であった。

4. 協力者の有無

協力者あり506名 (98.4%)、協力者なし8名 (1.6%)であった。

5. 相談者の有無

相談者あり511名 (99.2%)、相談者なし4名 (0.8%)であった。

6. 精神科既往の有無

精神科既往あり15名 (3.3%)、精神科既往なし435名 (96.7%)であった。

7. ライフイベントの有無

ライフイベントあり135名 (29.4%)、ライフイベントなし324名 (70.6%)であった。

8. 孤立した育児環境の有無

孤立した育児環境あり19名 (3.7%)、孤立した育児環境なし495名 (96.3%)であった。

9. 子どもの問題の有無

子どもの問題あり137名 (26.6%)、子どもの問題なし378名 (73.4%)であった。

10. 経済的な不安の有無

経済的な不安あり91名 (17.7%)、経済的な不安なし424名 (82.3%)であった。

11. EPDS得点

最小得点0点、最高得点17点、最頻得点3点、平均得点3.87 (±2.64) 点であった。

12. EPDS得点の平均値の差 (表1)

(1) 初産と経産

初産3.49、経産4.10であった ($p<0.01$)。

(2) 協力者の有無

協力者あり3.82、協力者なし7.50であった ($p<0.01$)。

(3) 相談者の有無

相談者あり3.88、相談者なし2.75であった。

(4) 精神科既往の有無

既往あり6.27、既往なし3.75であった ($p<0.05$)。

(5) 職業の有無

職業あり3.90、職業なし3.87であった。

(6) ライフイベントの有無

ライフイベントあり4.12、ライフイベントなし3.72であった。

(7) 孤立した育児環境の有無

孤立した育児環境あり6.37、孤立した育児環境なし3.78であった ($p<0.05$)。

(8) 子どもの問題の有無

子どもの問題あり3.87、子どもの問題なし3.88であった。

(9) 経済的な不安の有無

経済的な不安あり4.72、経済的な不安なし3.70 ($p<0.05$) であった。

13. EPDS得点（8点以下 - 9点以上）と他因子との関連（表2-3）

（1）EPDS得点（8点以下 - 9点以上）

EPDS得点が8点以下であったものは483名（94.3%），EPDS得点が9点以上であったものは29名（5.7%）であった（表2）。

（2）EPDS得点との関連がみられたもの

EPDS得点（8点以下 - 9点以上）との関連がみられたものは，表3のとおり「精神科既往の有無」「孤立した育児環境の有無」「経済的な不安の有無」の3項目であり，いずれも強い関連がみられた（ $p < 0.01$ ）。

14. EPDS得点に影響を及ぼす因子ごとの関連（表4-10）

EPDS得点に影響を及ぼす因子ごとの関連をみたところ，関連がみられたものは，「初産か経産か-ライフイベントの有無（表4）」「協力者の有無-相談者の有無（表5）」「協力者の有無-精神科既往の有無（表6）」「協力者の有無-ライフイベントの有無（表7）」「協力者の有無-孤立した育児環境の有無（表8）」「相談者の有無-孤立した育児環境の有無（表9）」「ライフイベントの有無-精神科既往の有無（表10）」の7項目であった。

IV. まとめ

健やか親子21では産後うつ病発生率の減少を目指しており，新生児訪問時や乳児健診時においてエジンバラ産後うつ病質問紙票（以下EPDS）を用いた支援が導入され始めている。

今回，A県B市において，乳児健診時におけるEPDSを用いた，EPDS得点の分散や関連因子について調査した。その結果，得られた知見は以下のとおりであった。

1）乳児健診時におけるEPDS9点以上の高得点の割合は5.7%であった。

2）EPDS得点の平均の差がみられたものは，以下の5項目であった。

① 「初産か経産か（経産のほうが高い）」（ $p < 0.01$ ）

② 「協力者の有無（協力者なしのほうが高い）」（ $p < 0.01$ ）

③ 「精神科既往の有無（精神科既往ありのほうが高い）」（ $p < 0.05$ ）

④ 「孤立した育児環境の有無（孤立した育児環境ありのほうが高い）」（ $p < 0.05$ ）

⑤ 経済的な不安の有無（経済的な不安ありのほうが高い）」（ $p < 0.05$ ）

3）EPDS得点（8点以下 - 9点以上）との関連がみられたものは，「精神科既往の有無」「孤立した育児環境の有無」「経済的な不安の有無」の3項目であった（ $p < 0.01$ ）。

V. 引用文献

1. 健やか親子21検討会：健やか親子21検討会報告書－母子保健の2010年までの国民計画－，厚生省（現厚生労働省），2000年
2. 健やか親子21ホームページ
<http://rhino.yamanashimed.ac.jp/sukoyaka/index.html>
3. 才村純，児童虐待防止制度の動向と保健領域の役割，小児保健研究，64(5)，651－659，2005
4. 北村俊則，他：産後うつ病に対する市町村保健師のメンタルヘルス活動の持つ2次予防効果に関する研究，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）北村俊則班，2004年
5. 新井陽子，産後うつ病とヘルスケア，女性のライフステージサイクルとナーシング，ヌーヴェルヒロカワ，2005
6. 鈴木茜，他：産後うつ病スケール（EPDS）得点の分散に関する研究，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）山縣然太郎班，2005年

VI. 参考文献

1. 中野仁雄：産後うつ病の実態調査ならびに予防的介入のためのスタッフの教育研究活動，厚生労働科学研究（子ども家庭

総合研究事業) 中野仁雄班, 2001年

2. 鈴宮寛子:産後うつ病の全国実態調査ならびに早期スクリーニングと援助方法の検討, 厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業) 中野仁雄班, 2002年
3. 吉田敬子, 他:妊娠中および出産後の母子精神保健プログラムの作成, 厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業) 中野仁雄班, 2002年
4. 金澤浩二, 他:妊産褥婦および乳幼児のメンタルヘルスシステム作りに関する研究, 厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業) 中野仁雄班, 2002年
5. 岡野禎治, 他:Client Service Receipt Inventory(CSRI)およびPathwayを用いた産後うつ病のケアシステムに関する質的研究厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業) 中野仁雄班, 2002年
6. 近藤直司, 他:児童・思春期不適應の予防を目的とした母子メンタルヘルス活動のあり方についての研究, 厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業) 山縣然太朗班, 2003年
7. 榮玲子:産後3ヶ月における母親意識の構造と育児状況に関する要因との関連

表1 EPDS 得点の平均値の差

		n	平均値	SD	t 検定
初産か経産か	初産	190	3.49	2.345	**
	経産	321	4.10	2.789	
協力者の有無	有	503	3.82	2.592	**
	無	8	7.50	3.665	
相談者の有無	有	508	3.88	2.651	
	無	4	2.75	1.500	
精神科既往の有無	有	15	6.27	3.712	*
	無	433	3.75	2.435	
職業の有無	有	94	3.90	2.644	
	無	417	3.87	2.656	
ライフイベントの有無	有	135	4.12	2.907	
	無	322	3.72	2.334	
孤立した育児環境の有無	有	19	6.37	4.258	*
	無	492	3.78	2.523	
子どもの問題の有無	有	135	3.87	2.448	
	無	377	3.88	2.715	
経済的な不安の有無	有	89	4.72	3.535	*
	無	423	3.70	2.383	

** p<0.01 * p<0.05

表2 EPDS得点(8点以下-9点以上)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 8点以下	483	93.8	94.3	94.3
	2 9点以上	29	5.6	5.7	100.0
	合計	512	99.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.6		
合計		515	100.0		

表3 EPDS 得点 (8 点以下 - 9 点以上) と他因子との関連

(上段 人 下段 %)

		8 点以下	9 点以上	計	χ^2 乗検定
初産か経産か	初産	181	9	190	
		95.3	4.7	100.0	
	経産	301	20	321	
		93.8	6.2	100.0	
	計	482	29	511	
		94.3	5.7	100.0	
協力者の有無	有	476	27	503	
		94.6	5.4	100.0	
	無	6	2	8	
		75.0	25.0	100.0	
	計	482	29	511	
		94.3	5.7	100.0	
相談者の有無	有	479	29	508	
		94.3	5.7	100.0	
	無	4	0	4	
		100	0	100.0	
	計	483	29	512	
		94.3	5.7	100.0	
精神科既往の有無	有	11	4	15	**
		73.3	26.7	100.0	
	無	413	20	433	
		95.4	4.6	100.0	
	計	424	24	448	
		94.6	5.4	100.0	
職業の有無	有	88	6	94	
		93.6	6.4	100.0	
	無	394	23	417	
		94.5	5.5	100.0	
	計	482	29	511	
		94.3	5.7	100.0	
ライフイベントの有無	有	125	10	135	
		92.6	7.4	100.0	
	無	309	13	322	
		96.0	4.0	100.0	
	計	434	23	457	
		95.0	5.0	100.0	
孤立した育児環境の有無	有	14	5	19	**
		73.7	26.3	100.0	
	無	468	24	492	
		95.1	4.9	100.0	
	計	482	29	511	
		94.3	5.7	100.0	
子どもの問題の有無	有	128	7	135	
		94.8	5.2	100.0	
	無	355	22	377	
		94.2	5.8	100.0	
	計	483	29	512	
		94.3	5.7	100.0	
経済的な不安の有無	有	76	13	89	**
		85.4	14.6	100.0	
	無	407	16	423	
		96.2	3.8	100.0	
	計	483	29	512	
		94.3	5.7	100.0	

** p<0.01 * p<0.05

表4 初産か経産かと ライフイベントの有無 のクロス表

			ライフイベントの有無		合計
			1 有	2 無	
初産か 経産か	1 初産	度数	67	98	165
		Q1 初産か経産かの %	40.6%	59.4%	100.0%
	2 経産	度数	68	225	293
		Q1 初産か経産かの %	23.2%	76.8%	100.0%
合計		度数	135	323	458
		Q1 初産か経産かの %	29.5%	70.5%	100.0%

p < 0.01

表5 協力者の有無と 相談者の有無 のクロス表

			相談者の有無		合計
			1 有	2 無	
協力者の有無	1 有	度数	504	2	506
		Q3 協力者の有無の %	99.6%	.4%	100.0%
	2 無	度数	6	2	8
		Q3 協力者の有無の %	75.0%	25.0%	100.0%
合計		度数	510	4	514
		Q3 協力者の有無の %	99.2%	.8%	100.0%

p < 0.01

表6 協力者の有無と 精神科既往歴 のクロス表

			精神科既往歴		合計
			1 有	2 無	
協力者の有無	1 有	度数	13	429	442
		Q3 協力者の有無の %	2.9%	97.1%	100.0%
	2 無	度数	2	6	8
		Q3 協力者の有無の %	25.0%	75.0%	100.0%
合計		度数	15	435	450
		Q3 協力者の有無の %	3.3%	96.7%	100.0%

p < 0.05

表7 協力者の有無と ライフイベントの有無 のクロス表

			ライフイベントの有無		合計
			1 有	2 無	
協力者の有無	1 有	度数	130	321	451
		Q3 協力者の有無の %	28.8%	71.2%	100.0%
	2 無	度数	5	2	7
		Q3 協力者の有無の %	71.4%	28.6%	100.0%
合計		度数	135	323	458
		Q3 協力者の有無の %	29.5%	70.5%	100.0%

p < 0.05

表8 協力者の有無と 孤立した育児環境の有無 のクロス表

			Q9 孤立した育児環境の有無		合計
			1 有	2 無	
Q3 協力者の有無	1 有	度数	12	494	506
		Q3 協力者の有無の %	2.4%	97.6%	100.0%
	2 無	度数	7	1	8
		Q3 協力者の有無の %	87.5%	12.5%	100.0%
合計		度数	19	495	514
		Q3 協力者の有無の %	3.7%	96.3%	100.0%

p < 0.01

表9 相談者の有無と 孤立した育児環境の有無 のクロス表

		Q9 孤立した育児環境の有無		合計
		1 有	2 無	
Q4 相談者の有無	1 有	度数 17	493	510
		Q4 相談者の有無の % 3.3%	96.7%	100.0%
	2 無	度数 2	2	4
		Q4 相談者の有無の % 50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数 19	495	514
		Q4 相談者の有無の % 3.7%	96.3%	100.0%

p < 0.01

表10 ライフイベントの有無と 精神科既往歴 のクロス表

		精神科既往歴		合計
		1 有	2 無	
ライフイベントの有無	1 有	度数 8	121	129
		Q8 ライフイベントの有無の % 6.2%	93.8%	100.0%
	2 無	度数 5	311	316
		Q8 ライフイベントの有無の % 1.6%	98.4%	100.0%
合計		度数 13	432	445
		Q8 ライフイベントの有無の % 2.9%	97.1%	100.0%

p < 0.05

思春期保健対策に向けた幼児期支援に関する研究 ～3歳児をもつ保護者意識と子どもの生活調査から～

鈴木 茜	千葉県印西市中央保健センター
谷川 紗知子	千葉県印西市中央保健センター
高柳 貴久子	千葉県酒々井町保健センター
中野 郁	千葉県酒々井町保健センター
鈴木 牧絵	千葉県酒々井町保健センター
梅田 奈津子	千葉県印旛健康福祉センター
鈴木 真理子	千葉県印旛健康福祉センター
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部
山縣 然太朗	山梨大学大学院医学工学総合研究部

今回の調査研究によって、乳幼児期の親子関係や生活状況を把握し乳幼児期からの支援について検討することを目的に、千葉県印旛管内で協力の得られた10市町村の3歳児をもつ保護者の意識や子どもの生活を調査し、498名の回答から得られた知見は以下のとおりである。

1. 地域のお祭りや行事に参加しているものは71.6%であった。出生順位別にみると、「第1子」が63.9%、「第2子以上」が80.7%であり、第1子よりも第2子以上の保護者のほうが地域のお祭りや行事に参加していた ($p<0.01$)。
2. 地域のお祭りや行事に参加している子どものほうが、友達とよく遊び ($p<0.01$)、外遊びもよくし ($p<0.05$)、早寝早起きをし ($p<0.05$)、他の子どもにもよく声をかけ ($p<0.01$)、自分ひとりで子育てしている感がなかった ($p<0.01$)。
3. 「食事の時間はだいたい決まっている」が98.2%、「家族と一緒に食事をすることがよくある」で「毎日ある」が92.3%であり、3歳児の食生活は整っている傾向が見られた。
4. 一方で、「子どもの食事をつくるのは楽しいですか」では、「何ともいえない」が53.0%と半数を超えていたが、親子で遊んでいる人ほど子どもの食事を作るのが楽しいと答えていたこともわかった ($p<0.01$)。
5. 子どもは早寝早起きをしていると回答したものは71.8%であった。そのうちの起きる時間は、平均が7.2±0.8時、最小値5時、最大値10時、最頻値7時であった。また、寝る時間は、平均が21.3±0.9時、最小値18.5時、最大値24時、最頻値21時であった。
6. 親自身が中学校までに親と性に関する事柄について「ほとんど・まったく話しをしていない」と回答したものを合わせると88.1%であったが、一方で現在3歳児をもつ保護者が子どもへ、性に関する会話を全くしてないものは11.3%であった。
7. 性に関する話を子どもとしているもののうち会話の内容として多かったものは、「汚い手で性器を触らない」は68.5%、「綺麗に性器を洗う」は65.0%、「性器を隠しましょう」は43.0%であり、3歳児における家庭での性教育は、生活習慣確立への一助を担っていると考えられた。

I. 研究目的

健やか親子21の「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」は母子保健の主要課題のひとつとしてあげられている。若年妊娠や性行為感染症の増加などの問題に対し効果的な対策が見出せていないため、地域保健分野の取り組みに対する課題は大きい。また、思春期でのトラブルへの対応では手遅れとの指摘もあり、妊娠期や乳幼児期からの支援や乳幼児期からの親子関係が非常に重要であることがわかってきている¹⁾。今後の地域保健分野で課題の取り組みを進めていく上では、現在の幼児期の親子関係や生活状況、保護者の意識を把握し、思春期保健対策について地域と行政、関係部署の連携が重要であると考える。

そこで今回は、3歳児をもつ保護者の意識と子どもの生活を調査し、思春期保健対策に向けた幼児期支援について得られた知見を報告する。

II. 方法

1. 調査対象

千葉県印旛保健所管内の協力が得られた10市町村の、3歳児をもつ保護者を対象とした。

2. 調査方法

3歳児健診の会場にて保護者に自記式調査票を手渡し（もしくは事前に郵送し）、健診当日に回収した。

3. 調査内容

調査内容は、大別すると、回答者と子どもの属性、子どもや親子の生活（遊び、食、地域とのつながり、日常生活状況、喫煙など）、性に関する会話の内容等で構成した（添付資料）。

4. 調査期間

平成18年8月から10月の3ヶ月間に実施した。

5. 分析方法

回収した調査票のうちの有効回答（498票）について、各項目の有効回答票（有効パーセ

ント）より、集計・分析をすすめた。

分析は、統計ソフトSPSS11.5Jを使用した。

III. 結果

1. 回収状況

配布数543人、回収数498人、回収率91.7%であった。

2. 対象の特徴

回答者は、父親が17名（3.4%）、母親が475名（95.4%）、その他6名（1.2%）であった。回答者の年齢は、平均値33.2±5.1歳、最小値20歳、最大値60歳であった。祖父母の同居状況は、105名（21.4%）であった。回答者の就労状況は、現在は職についていないが328名（66.4%）、パート・アルバイト等が93名（18.8%）、常勤が73名（14.8%）であった。子どもの性別は男児245名（49.4%）、女児251名（50.6%）であった。出生順位は、第1子が254名（51.4%）、第2子が181名（36.6%）、第3子が47名（9.5%）、第4子が10名（2.0%）、第5子が2名（0.4%）であった。保育園・幼稚園通園の有無は、通園していないが280名（56.6%）、保育園通園が111名（22.4%）、幼稚園通園が104名（21.0%）であった。

3. 親の社会性について

（1）地域の子育てサークル等に参加していますか

「はい」は141名（28.5%）、「いいえ」は354名（71.5%）であった。

「子育てサークル等に参加していますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が19.2%、「同居なし」が31.3%であり、祖父母と同居していないほうが子育てサークル等に参加していた（ $p<0.05$ ）。

「子育てサークル等に参加していますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「現在職についていない」が38.5%、「パート・ア

アルバイト等」が14.0%、「常勤」が4.1%であり、現在職についていないほうが子育てサークル等に参加していた ($p < 0.01$)。

「子育てサークル等に参加していますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が5.5%、「幼稚園」が11.7%、「通園していない」が43.7%であり、通園していない児の保護者が最も子育てサークル等に参加していた ($p < 0.01$)。

(2) 地域のお祭りや行事に参加していますか。

「はい」は353名 (71.6%)、「いいえ」は140名 (28.4%)であった。

「地域のお祭りや行事に参加していますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が63.9%、「第2子以上」が80.7%であり、第1子よりも第2子以上の保護者のほうが地域のお祭りや行事に参加していた ($p < 0.01$)。

(3) 公園などに子どもを連れて遊びに行くときがありますか。

「はい」は374名 (75.4%)、「いいえ」は122名 (24.6%)であった。

「公園などに子どもを連れて遊びに行くことがありますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「現在職についていない」が81.0%、「パート・アルバイト等」が66.3%、「常勤」が63.0%であり、現在職についていない保護者のほうが公園などに子どもを連れて遊びに行っていることがわかった ($p < 0.01$)。

「公園などに子どもを連れて遊びに行くことがありますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が80.3%、「第2子以上」が70.7%であり、第1子よりも第2子以上の保護者のほうが公園などに子どもを連れて遊びに行っていた ($p < 0.05$)。

(4) 自分ひとりで子育てしているという思いがありますか。

「よくある」は28名 (5.7%)、「ややある」

は150名 (30.3%)、「あまりない」は231名 (46.7%)、「まったくない」86名 (17.4%)であった。

「自分ひとりで子育てしているという思いがありますか」で「よくある」「ややある」と答えた人を合わせて就労別にみると、「現在職についていない」が39.5%、「パート・アルバイト等」が27.5%、「常勤」が30.2%であり、現在職についていない保護者が最も自分ひとりで子育てをしているという思いがあった ($p < 0.01$)。

「自分ひとりで子育てしているという思いがありますか」で「まったくない」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が26.6%、「幼稚園」が14.4%、「通園していない」が14.7%であり、保育園に通園している児の保護者が最も自分ひとりで子育てしているという思いがまったくなかった ($p < 0.05$)。

4. 子どもの遊び・子どもとの関わり

(1) よくテレビをみせていますか。

「はい」は447名 (89.9%)、「いいえ」は50名 (10.1%)であった。うち回答があったもの434名の一日の平均視聴時間は 2.5 ± 1.2 時間であり、最小値0.5時間、最大値10.0時間、最頻値2.0時間であった。

(2) 絵本の読み聞かせをしていますか。

「はい」は410名 (83.5%)、「いいえ」は81名 (16.5%)であった。うち回答があったもの279名の一日の平均読み聞かせ時間は 18.8 ± 12.0 分であり、最小値0.0時間、最大値60.0分、最頻値10.0分であった。

(3) お子さんとよく遊んでいますか。

「よく遊んでいる」は242名 (48.8%)、「時々遊んでいる」は225名 (45.4%)、「あまり遊んでいない」は28名 (5.6%)、「遊んでいない」は1名 (0.2%)であった。

「お子さんとよく遊んでいますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1

子」が96.0%、「第2子以上」が92.1%であり、第1子よりも第2子以上のほうが子どもとよく遊んでいた ($p<0.01$)。

(4) お父さんはお子さんとよく遊んでいますか。

「よく遊んでいる」は202名 (41.3%)、「時々遊んでいる」は228名 (46.6%)、「あまり遊んでいない」は49名 (10.0%)、「遊んでいない」は10名 (2.0%)であった。

「お父さんはお子さんとよく遊んでいますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が83.0%、「同居なし」が89.3%であり、祖父母と同居していない父親のほうが子どもとよく遊んでいた ($p<0.05$)。

「お父さんはお子さんとよく遊んでいますか」で「はい」と答えた人を男女別にみると、「男児」が85.9%、「女児」が89.8%であり、男児よりも女児の父親のほうが子どもとよく遊んでいた ($p<0.01$)。

(5) 外遊びをよくしていますか。

「している」は462名 (93.0%)、「ほとんどしていない」は35名 (7.0%)であった。うち回答があったもの345名の一日の平均外遊び時間は 2.0 ± 1.0 時間、最小値0.0時間、最大値6.0時間、最頻値2.0時間であった。

「外遊びをよくしていますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が98.2%、「幼稚園」が92.3%、「通園していない」が91.1%であり、保育園に通園している児が最も外遊びをよくしていた ($p<0.05$)。

(6) 友達とよく遊みますか。

「よく遊んでいる」は256名 (51.6%)、「時々遊んでいる」177名 (35.7%)、「あまり遊んでいない」は49名 (9.9%)、「遊んでいない」は14名 (2.8%)であった。

「友達とよく遊みますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が77.1%、「同居なし」が89.9%であり、祖父母と同居していないほうが友達とよく遊ん

でいた ($p<0.01$)。

「友達とよく遊みますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が97.3%、「幼稚園」が92.3%、「通園していない」が81.3%であり、保育園に通園している児が最も友達とよく遊んでいた ($p<0.01$)。

(7) ごっこ遊びをしていますか。

「よく遊んでいる」は335名 (73.3%)、「時々遊んでいる」は104名 (22.8%)、「あまり遊んでいない」は16名 (3.5%)、「遊んでいない」は2名 (0.4%)であった。

「ごっこ遊びをしていますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が93.0%、「同居なし」が96.6%であり、祖父母と同居していないほうがごっこ遊びをしていた ($p<0.01$)。

「ごっこ遊びをしていますか」で「はい」と答えた人を男女別にみると、「男児」が93.8%、「女児」が98.7%であり、男児よりも女児のほうがごっこ遊びをしていた ($p<0.01$)。

5. 食

(1) 食事の時間はだいたい決まっていますか。

「はい」は447名 (98.2%)、「いいえ」は8名 (1.8%)であった。

(2) 家族と一緒に食事をするのがよくありますか。

「毎日ある」は421名 (92.3%)、「週に数日ある」は31名 (6.8%)、「ほとんどない」は4名 (0.9%)であった。

「家族と一緒に食事をするのがよくありますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が89.3%、「第2子以上」が95.9%であり、第1子よりも第2子以上の児のほうが家族と一緒に食事をするのがよくあった ($p<0.05$)。

(3) おやつを決めて与えていますか。

「はい」は333名 (72.9%)、「いいえ」は124

名 (27.1%) であった。

「おやつ時間を決めて与えていますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「常勤」が84.4%、「パート・アルバイト等」が75.0%、「現在職についていない」が69.6%であり、常勤の保護者が最もおやつ時間を決めて与えていた ($p < 0.05$)。

「おやつ時間を決めて与えていますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が84.8%、「幼稚園」が70.1%、「通園していない」が68.7%であり、保育園に通園している児の保護者が最もおやつ時間を決めて与えていた ($p < 0.01$)。

(4) よくかんで食べていますか。

「はい」は392名 (86.9%)、「いいえ」は59名 (13.1%) であった。

「よくかんで食べていますか」で「はい」と答えた人を男女別にみると、「男児」が83.3%、「女児」が91.0%であり、男児よりも女児のほうがよくかんで食べていた ($p < 0.05$)。

(5) 子どもの食事をつくるのは楽しいですか。

「はい」は197名 (43.5%)、「いいえ」は16名 (3.5%)、「何ともいえない」は240名 (53.0%) であった。

「子どもの食事をつくるのは楽しいですか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「常勤」が60.3%、「パート・アルバイト等」が46.4%、「現在職についていない」が39.3%であり、常勤の保護者が最も子どもの食事をつくるのが楽しいと感じていた ($p < 0.05$)。

「子どもの食事をつくるのは楽しいですか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が54.3%、「幼稚園」が35.2%、「通園していない」が41.6%であり、保育園に通園している児の保護者が最も子どもの食事をつくるのが楽しいと感じていた ($p < 0.05$)。

(6) お子さんは一緒に食事づくりや後片付けをしていますか。

「している」は342名 (76.2%)、「ときどきしている」は107名 (23.8%) であった。

「お子さんは一緒に食事づくりや後片付けをしていますか」で「している」と答えた人を男女別にみると、「男児」が67.9%、「女児」が84.3%であり、男児よりも女児のほうが子どもと一緒に食事づくりや後片付けをしていた ($p < 0.01$)。

6. 生活

(1) おむつはとれましたか。

「はい」は364名 (79.8%)、「トレーニング中」は81名 (17.8%)、「いいえ」は11名 (2.4%) であった。

(2) 子どもを連れて夜外食・外出などをすることがよくありますか。

「ある」は64名 (14.0%)、「ときどきある」は205名 (44.8%)、「あまりない」は157名 (34.3%)、「ない」は32名 (7.0%) であった。帰宅時間は、平均が 20.2 ± 1.2 時、最小値17.0時、最大値23.0時、最頻値20.0時であった。

「子どもを連れて夜外食・外出などをすることがよくありますか」で「ある」「ときどきある」と答えた人を合わせて就労別にみると、「常勤」が61.6%、「パート・アルバイト等」が63.1%、「現在職についていない」が56.9%であり、パート・アルバイト等の保護者が最も子どもを連れてよる外食・外出をすることがよくあった ($p < 0.05$)。

(3) 子どもは早寝早起きをしていますか。

「はい」は328名 (71.8%)、「いいえ」は129名 (28.2%) であった。

回答があった454名の起きる時間は、平均が 7.2 ± 0.8 時、最小値5.0時、最大値10.0時、最頻値7.0時であった。また、回答があった452名の寝る時間は、平均が 21.3 ± 0.9 時、最小値18.5時、最大値24.0時、最頻値21.0時であった。

子どもは早寝早起きですかという設問で、

「はい」と回答した群の平均は、起きる時間が6.9±0.6時、寝る時間が20.9±0.7時であり、「いいえ」と回答した群の平均は、起きる時間が7.8±0.8時、寝る時間が22.1±0.7時であり、ともに有意な関連がみられた。

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「常勤」が60.0%、「パート・アルバイト等」が66.7%、「現在職についていない」が75.4%であり、現在職についていない保護者が最も子どもは早寝早起きをしていた (p<0.05)。

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が64.4%、「第2子以上」が80.5%であり、第1子よりも第2子以上のほうが子どもは早寝早起きをしていた (p<0.01)。

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が61.3%、「幼稚園」が92.0%、「通園していない」が69.2%であり、幼稚園に通園している児が最も早寝早起きをしていた (p<0.01)。

(4) 歯磨きや手洗いをしていますか。

「している」は421名 (91.9%)、「ときどきしている」は34名 (7.4%)、「あまりしていない」は3名 (0.7%) であった。

(5) 衣服の着脱をひとりでしますか。

「する」は240名 (52.3%)、「ときどきする」は194名 (42.3%)、「あまりしない」は25名 (5.4%) であった。

「衣服の着脱をひとりでしますか」で「する」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が39.6%、「同居なし」が56.6%であり、祖父母の同居していないほうが衣服の着脱をひとりでしていた (p<0.01)。

「衣服の着脱をひとりでしますか」で「する」と答えた人を男女別にみると、「男児」が42.4%、「女児」が61.8%であり、男児よりも女児のほうが衣服の着脱をひとりでしていた

(p<0.01)。

7. 地域との関わり

(1) あなたの住んでいる地域では子どもに道で声をかけてくれる人がいますか。

「はい」は367名 (80.8%)、「いいえ」は87名 (19.2%) であった。

(2) 他の子どもに道でよく声をかけますか。

「はい」は240名 (53.0%)、「いいえ」は213名 (47.0%) であった。

「他の子どもに道でよく声をかけますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が41.9%、「幼稚園」が64.7%、「通園していない」が53.5%であり、幼稚園に通園している児の保護者が最も他の子どもに道でよく声をかけていた (p<0.01)。

8. たばこ

(1) あなたは現在喫煙をしていますか。

「はい」は98名 (21.4%)、「いいえ」は359名 (78.6%) であった。

(2) あなた以外の家族に、現在喫煙している人がいますか。

「いる」は247名 (53.9%)、「いない」は211名 (46.1%) であった。

「あなた以外の家族に、現在喫煙している人がいますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が32.7%、「同居なし」が50.1%であり、祖父母と同居していないほうが家族に喫煙している人がいた (p<0.01)。

9. 性について

(1) お子さんは、自分が「男の子」か「女の子」か、知っていますか。

「はい」は426名 (93.0%)、「いいえ」は3名 (0.7%)、「わからない」が29名 (6.3%) であった。

(2) 今までに、親から子へ、性の話しをし